

第60回キヤンサーボード開催のお知らせ

平成22年12月1日(水) 18:00~19:00

場所: 附属病院4階第1会議室

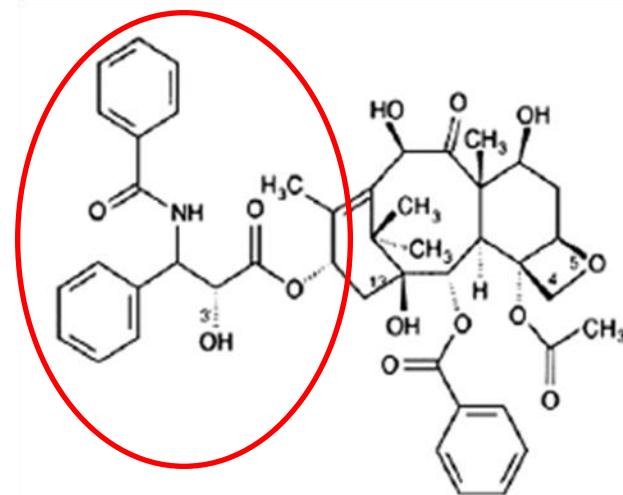
テーマ: 胃癌の1例から見る腫瘍髄伴症候群

第59回キヤンサーボード報告「タキサン系抗がん剤について」

1971年に初めて報告がなされた
微小管重合を促進し抗腫瘍効果を示す

過敏症の発現時期と症状

- ・95%が初回~2回目投与時に発症している
- ・80%が投与直後(10分以内)に症状が発現
- ・呼吸困難、腹痛、低血圧、頻脈、徐脈、潮紅、血管浮腫など



パクリタキセル

過敏症対策

- ・投与時間の延長
- ・予防的前投薬の実施: ステロイド(デキサメタゾン)、抗ヒスタミン剤(H1, H2受容体拮抗薬)

●薬理特性に基づく投与方法の開発

- ・Paclitaxelの効果は濃度より暴露時間に依存
- 10nMを長時間持続させる(*in vitro* study)

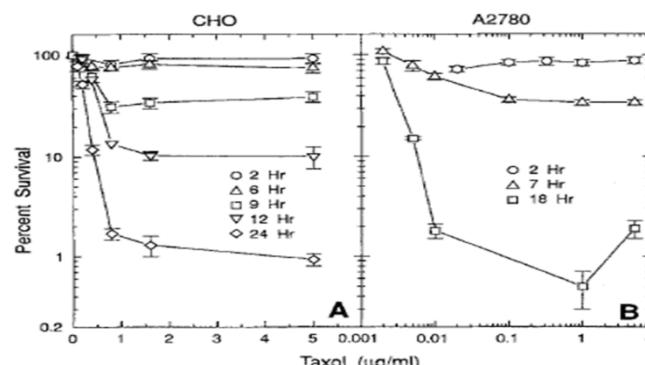


短期間繰り返し投与により暴露時間を増やす

Weekly Paclitaxelの誕生

パクリタキセルの薬理特性、Dose dense理論から増殖効果が期待できる投与方法

パクリタキセルは時間依存性薬剤



濃度ではなく暴露時間が殺細胞効果に影響する

体内動態の比較

	パクリタキセル	ドセタキセル
分布容積	大(>40L)	大(>40L)
蛋白結合率	95%	80~90%
尿中未変化体排泄率	約10%	約5%
消失経路	CYP2D8,3A4	CYP3A4,3A5
クリアランス	非線形	線形

新規パクリタキセル製剤: アブラキサン

	アブラキサン	タキソール
前投薬	不要	必須
静注キット	制限無し	PVCフリー
点滴時間	30分	3時間
承認用量	260mg/m ²	210mg/m ²

今回は、42名の方にご出席いただきました。ありがとうございました。

●お問い合わせ先

がんプロフェッショナル養成プラン 岡野・川副 (内線2623)
附属病院経営企画 茜ヶ久保 (内線2807)